

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 1月19日

## 【評価実施概要】

事業所番号	272400425		
法人名	社会福祉法人峰寿会		
事業所名	グループホームゆりの家		
所在地 (電話番号)	〒037-0202 青森県五所川原市金木町字芦野200番地242 (電話) 0173-54-1391		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成20年11月19日	評価確定日	平成21年1月19日

【情報提供票より】(平成20年11月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 11月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	18 人	常勤	18人, 非常勤 0人, 常勤換算 18人

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷金	有( 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 780 円			

### (4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	26 名	男性	9 名	女性	17 名
要介護1	8 名	要介護2	6 名		
要介護3	8 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79.8 歳	最低	63 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立金木病院、今歯科医院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>グループホームは3ユニットが棟続きの明るく広々とした建物である。敷地内には、同法人の介護老人保健施設・居宅介護支援事業所・訪問看護ステーション・訪問介護・憩いの家・有料老人ホーム等がある。建物の直ぐ後ろには芦野公園があり、天気の良い日は散歩に出かけるなど、自然の中でゆったりと過ごす事ができる。</p> <p>今年は、「一人一人心通い安心できる家」と新たな理念を全職員で作り上げ、共有し、日々のケアに取り組んでいる。利用者の皆さんの表情や笑顔から、安心されている様子が伺える。</p>
---

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域との関わりでは、町内会に入会し、町内の行事にも積極的に参加したり、交流したりしている。家族との連携では、体調不良などの際はその都度電話連絡でお知らせし、現金出納帳に関しては、面会時や郵送することで定期的に報告している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、各ユニットの管理者が代表し行なっている。外部評価の結果については、職員全体で話し合い改善に向けて積極的に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は年6回と計画を立てたが、1回の開催だった。参加者(ご家族・市担当者・町内の有識者等)にグループホームの取り組みについて公表し、意見交換し、サービスの質の向上につながるよう取り組んでいる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)</p> <p>寄せられた相談に対しては前向きに受け止め、今後の運営に反映させるよう取り組んでいる。意見の吸い上げ方法についての検討を期待したい。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会へ入会し、地域の行事に積極的に参加することで、地域の方と挨拶したり、交流したりする機会が増えている。また、地元の中学生在が体験学習で訪問した際は、高齢者とのふれあいを通じて、認知症の理解につながるよう働きかけている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成20年の夏に再度、全職員が参加し理念を作りあげている。		グループホーム独自の理念ではあるが、地域密着型サービスの役割を盛り込むことが望ましい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で話し合って決めるという事を大切にしており、月一回のケア会議では勉強会も実施している。会議に出席できない職員には申し送り等で伝達している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会へ入会し、地域の行事に積極的に参加することで、地域の方と挨拶したり、交流したりする機会が増えている。また、地元の中学生在が体験学習で訪問した際は、高齢者とのふれあいを通じて、認知症の理解につながるよう働きかけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価の結果について、改善に向けて全職員で検討し取り組んでいる。自己評価は管理者が代表して行っており、他職員には評価の意義が浸透していない。</p>		<p>全職員で評価の意義を理解する機会を設け、全職員で取り組むことを期待します。</p>
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>定期的(年6回)な運営の計画、参加者への依頼はなされているが、実施に結びついていない。</p>		<p>定期的な会議開催に向けた一層の努力を期待します。</p>
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村担当者に災害時の避難等について相談し、助言を得るなど連携を取るよう努めている。</p>		<p>さらに市町村との連携を図る機会を積極的に持ち、サービスの質の向上に結び付けることを期待します。</p>
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部講師を招いての法人全体の研修会にグループホーム職員も参加している。対応が必要と思われる時の支援体制ができています。</p>		<p>研修会の資料は職員に配布される他にも、いつでも職員が活用できる様に記録・資料の整備を期待します。</p>
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者が日々職員に指導を徹底している。身体面、精神面に気を配り、言葉づかい等は都度注意し合い全職員で防止に努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は重要事項説明書等で十分に説明している。疑問点を尋ね、理解していただいてから契約をしている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>面会の際に日頃の様子をお知らせし、体調不良や病院受診等の際にもその都度、電話で報告している。金銭管理は面会時に報告したり、面会の少ない家族へは2～3ヶ月に1回郵送にて報告したりしている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>相談を受け付けた際は検討会を開催して回答し、記録も残されている。昨年までは意見箱を設置していたが、ほとんど利用されなかったため撤去した。</p>		<p>サービスの質向上のためにも、さらに家族の意見、相談等を引き出すための工夫が望ましい。</p>
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員はユニットごとに固定し、馴染みの関係作りを心がけている。異動時は、引継ぎ期間を1ヶ月間設け、スムーズに移行できるよう取り組んでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに応じた外部研修に参加するほか、グループホーム内では月1回勉強会を実施している。しかし、研修の報告書は法人にて管理され、勉強会の記録は残されていない。		資料をファイルしたり、勉強会の記録を整理し、いつでも職員が研修、確認でき周知徹底が図られことに期待します。
14	18	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協会に加盟し研修会に参加している。また、2ヶ月に1回開催の地域ケア会議にも参加し、意見交換やサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者、ご家族、担当のケアマネージャー等からの情報収集にて、急な環境変化とならないような対応を実施している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の自宅の畑へ一緒に行って野菜を植えたり、食事の準備や後片付けを一緒に行ったりして、共に支え合う関係となるよう留意している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者とのコミュニケーションの中から希望や意向の把握に努め、利用者の思いに沿って支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の希望が盛り込まれ、職員間で話し合いながら介護計画を作成している。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の見直しはもちろん、利用者の変化に応じて随時検討し、状態に応じたサービス計画書が作成されている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状況に応じて急変時は同法人の看護師が対応したり、受診の車の手配等対応している。また同法人の老人保健施設への入居もスムーズにできる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族が希望するかかりつけ医となっている。家族が可能な場合は病院への同行をお願いし、不可能な時は職員が通院介助している。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームでは医療連携体制を取り方針を決めている。入居中に看取りについての説明を行い、方針を共有している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の自尊心に配慮した対応がされている。個人情報取り扱いについて勉強会を実施したり、職員全体で注意し合ったりしている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの思いや希望に合わせた個別の対応が出来るよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員と一緒に準備から後片付けまで行なっている。また、自分で片付けできない方のお膳も一緒にさげられるなど、家族的な楽しい雰囲気です。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>週3回入浴日を設定しているが、その日の希望に応じて対応している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>利用者の希望と一緒に畑へ行って農作業をしたり、自宅の屋根の雪降ろしをしたりと、張り合いや喜びのある生活への配慮がされている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの楽しみごとや希望に沿って、公園への散歩、近所のスーパーへの買い物等戸外へ出かけるよう支援している。</p>		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束のないケアを認識しケアに取り組んでいるが、研修会、勉強会、マニュアル等の記録が整理されていない。		必要な時に職員が確認できるように研修の資料や記録を整備してにすることが望ましい。
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けず開放的な雰囲気である。夜間や職員が手薄な時間帯は施錠するが、圧迫感を与えないように配慮している。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署からの指導のもと年に2回避難訓練を実施している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は併設施設の栄養士が作成したメニューで調理されており、カロリーの把握はでき、バランスも取れている。個別に食事摂取量や飲水摂取量の観察も行なわれ状態観察に努めている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	いつでも見られるよう感染マニュアルが各ユニットに設置され、予防に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p><b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b></p>					
<p><b>(1) 居心地のよい環境づくり</b></p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>敷地内で犬が飼われており利用者が癒されている。共有空間は広く、個々に好きな場所で自由に過ごせるように椅子やソファが配置されている。テレビの音量も配慮され心地よく過ごせる環境スペースとなっている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者が安心して暮らせるように、部屋には自宅で使い慣れた馴染みの物を持って来てもらっている。</p>		

 は、重点項目。